

緩和ケアのPDCAサイクル 実地調査の先行事例 調査

がん診療連携拠点病院等における
緩和ケアの質の向上に資する実地調査の実装、及び
がんと診断された時からの緩和ケアの更なる推進に資する
研究班

1

1

背景

第3期がん対策推進基本計画

- 実地調査や遺族調査等を定期的かつ継続的に実施し、評価結果に基づき、緩和ケアの質の向上策の立案に努める

がん診療連携拠点病院 整備指針

- 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じること

2

2

実地調査の経過・課題

- 施策の医療現場への反映、課題抽出のために厚生労働省が拠点病院6か所の実地調査を施行(2013)
- 拠点病院9か所の実地調査を施行(2014-2015)

- 都道府県による実地調査パイロットを実施(厚生労働省2019)

- 調査を受ける病院と都道府県の負担が大きい
- 評価者の均質化・選定
- 評価法
- ピアレビューとの棲み分け



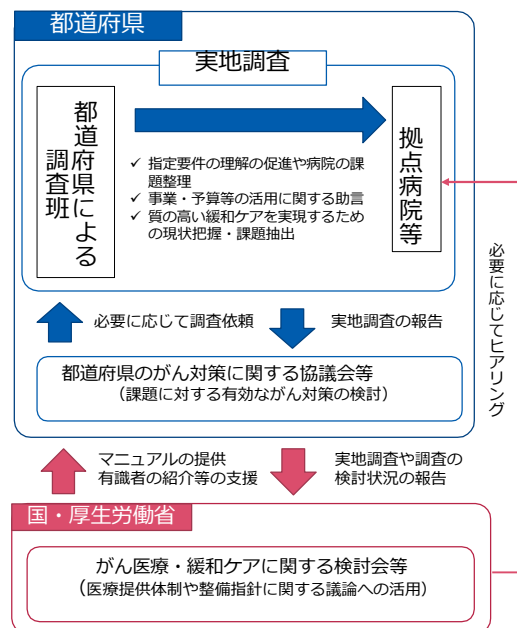
- より実効性のある実地調査の方法について、病院や都道府県の負担も考慮して検討
- 感染症流行時等においても実施できる方法を検討
- ピアレビューとの棲み分け、チェックリストの見直し、評価者の選定方法等の様々な課題について研究班を設置・実施
- それらを踏まえて改めて部会で議論

(第4回がんとの共生のあり方に関する検討会、第3回がん緩和ケアに係る部会)³

3

都道府県による実地調査(パイロット)(概要)

- 目的
 - 拠点病院等における指定要件に関する理解の促進や病院の課題整理
- 方法
 - 緩和ケアに関する有識者を含む都道府県による調査班により施設を訪問し、厚生労働省作成の実地調査マニュアルを参考に、概ね半日程度で以下の調査を実施。結果は、がん対策に関する協議会や厚生労働省に報告。
 1. 指定要件に関する具体的な整備状況の確認
 2. 病院幹部・緩和ケア等に関わる医療従事者からのヒアリング
 3. 課題抽出後の問題解決に向けた指導や相談
- 調査対象病院
 - 拠点病院等の中で、診療実績が少ない、経過措置が含まれる病院等を優先的に調査
- 2019年度にパイロット調査を実施。結果を踏まえ、課題の整理を行った。



4

4

調査目的

本研究では、都道府県行政が主体となり、拠点病院等を対象に緩和ケアの提供体制やその質に関する効率的で有効性の高い実地調査の方法を開発するため、アウトカムの目標設定と指標を用いたプログラム評価に基づき、地域緩和ケア、拠点病院が提供する緩和ケアのロジックモデルの構築を目指す。

【本調査の目的】

都道府県単位の実地調査について先行好事例の取り組み内容を把握する

5

5

調査概要

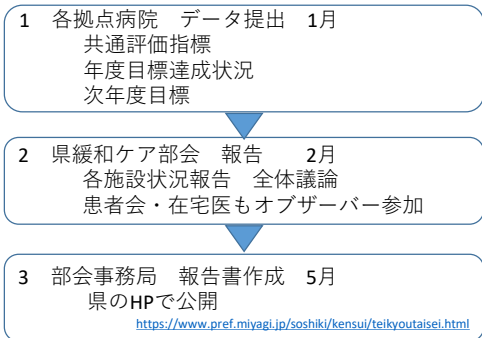
- 方法 非構造化インタビュー調査
- 調査期間 2022年4～5月
- 対象者 都道府県の緩和ケアのPDCAサイクル確保を担う者
機縁法を用いて2つの都道府県の担当者を選定した
- 調査内容 緩和ケアに関するPDCAサイクル確保の具体的な方法

6

6

結果 A県モデル

- 県の緩和ケア部会で毎年実施



- 今後の課題
 - 参加施設 拠点病院以外へ拡大
 - 経年で指標の数値に大きな変動はないため、項目の削除を検討する

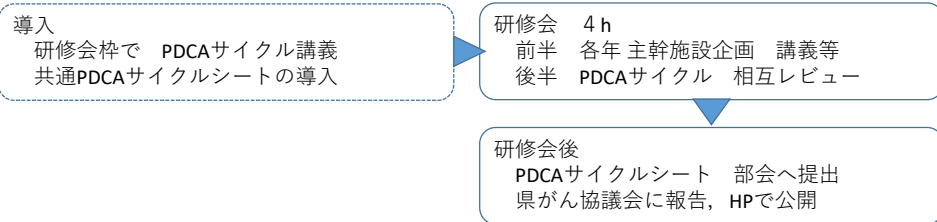
評価指標	
1	入院がん患者に対するスクリーニング実施率
2	外来がん患者に対するスクリーニング実施率
3	緩和ケアチーム年間新規患者数 (100入院あたり)
4	緩和ケアチーム年間のべ診察数 (100入院あたり)
5	緩和ケア診療加算算定数 (100入院あたり)
6	緩和ケア外来年間新規患者数
7	緩和ケア外来年間のべ受診者数
8	がん看護外来年間新規人数
9	がん患者指導管理料II年間算定数
10	緩和ケアリンクナース会開催数
11	病棟等のカンファレンスに緩和ケアチームメンバーが参加した回数
12	緩和ケア病棟の入退院状況等
13	がん関連認定看護師・専門看護師数
14	がん患者の自宅死亡率 (自宅のみ、介護施設含む)
15	地域カンファレンス開催数
16	退院時共同指導料 (2)
17	外来がん患者在宅連携指導料
18	医師の緩和ケア研修会受講率
19	病院等で開催する市民向け講演会等の参加人数

7

7

結果 B県モデル

- 県の緩和ケア部会 緩和ケアチーム研修会として毎年実施



達成状況	No.	令和2年度 各病院の目標達成状況 及び 令和3年度 目的(目標)の設定			
		Plan	Do	Check	Act
研修会(導入)の導入状況	1	研修会(導入)の導入状況	研修会(導入)の導入状況	研修会(導入)の導入状況	研修会(導入)の導入状況
研修会(導入)の導入状況	2	研修会(導入)の導入状況	研修会(導入)の導入状況	研修会(導入)の導入状況	研修会(導入)の導入状況

- 今後の課題
 - ピアレビューの充実, 参加施設へのPDCAサイクルの支援, ICTの活用

http://www.hyogo-ganshinryo.jp/profile/pdf/r3_goal.pdf#zoom=300

8

8

考察

- いずれの都道府県も、継続的に実施可能な緩和ケアPDCAサイクル確保の体制を構築していた。
- 取り組みの形骸化を防ぐために参加施設の拡大や評価項目の変更、事務業務の削減に向けたICTの活用などを検討していた。
- 各地域や施設が抱える課題にタイムリーに対応するためには、PDCAサイクルの支援体制があることが望ましい。
- 効率的で有効な実地調査モデルを開発するためには、ミニマムな評価指標の設定や、データ収集の具体的な方法、データを用いた改善策の検討と臨床への展開方法について、具体的な方法を提示する必要がある。

地域単位で継続的に実施可能な実地調査モデルの必須要素

- 1 ミニマム評価指標の提示（データ入手方法も含む）
- 2 各地域・各施設へのPDCAサイクル導入に向けた教育支援
- 3 具体的な改善策の検討方法の提示

9

